



8月の青空の下、庭に

アサガオの花が咲いています



豊川パート3

車は順調に走り名古屋を過ぎ、岡崎も過ぎ豊川インターに着きました。そこで降りて一般道に入った

ところで彼女にこの後の道順を聞きながら車を進めて行きました。時間は午前十一時を少し回っていました。道すがら「コメダ珈琲」という看板を見つけ、私はそこに車を入れて「少し休んで行こうか」と彼女に言い、彼女も「はい」と素直に従ってくれ、私たちは喫茶店に入りコーヒーを頼んでから、彼女に「少しは考えてくれましたか」と聞いていました。「はい、いろいろ考えたのですが、私は男性との付き合いも初めてですし、結婚ということに自信がないのです。恋愛経験もな

く、いきなり結婚は難しいので、時間をかけて籠谷さんとお付き合いしてから結論を出したいと思っています。」としつかりした声で言いました。

「それもわかるけどね、世の中には一目惚れと言ふこともあるし、時間をかければ何かがわかると言ふことでもなく、現在の貴女の私に対しての気持ちが大切で、今は私のことをどのように思っているの?」「……先ほども言いました通り籠谷さんのことは好きです。しかし結婚生活がどのようなものか具体的に浮かんできて、自信がないのです」「初めてのことから、だれでもそうだよ。それはわかる。しかし時間を重ねれば結婚生活がわかるかと言ふとそうゆう物で

は無いと思う。結婚してみなければわからない事がたくさんあると思う。それは二人が少しずつ経験を積みかさねて行つて初めてわかるのと違うかなあ」「問題は君が私を愛しているかどうかだよ、私は君を愛している。だから結婚したいと思つているのだよ」「私も籠谷さんのことは愛していると思います。毎日籠谷さんのことを考えています。これが愛なのでしょうか?」「そうだよ、それが愛だよ、その気持ちが大切でそれさえあればあとはどうにでもなるのだよ」「私はここを押す時と彼女にせまっています。」「そうですか、自信がないのですが」「大丈夫、後は私に任せて。私にも言つていた通り結婚経験者なので、変な話、私に任せおきなさい、経験は徐々にして行けばいいので心配いらぬ」と私は都合のいいことを言っていました

た。此処で押さなければ押すところが無いと思ひ必死で押ししていました。その熱意にほだされたのか彼女が暫く考えていました「こんな私でよければよろしくお願いします」と言つてくれました。私は心の中で「やったー」と叫んでいました。稲垣かをると言う人は22歳ですが、とても清潔感のある人であり、しつかりと自分を持つている人のように私には映っていました。私にとって手も握つていなくて、キスもして無くつて、まして肉体関係もなく、結婚を申し込むなんて自分でも信じられない事でした。それだけ彼女が新鮮な印象を私に植え付けていたのですね。

思い起こせば二度目の結婚ですが、洋子と別れて10年が過ぎていました。その間順子さんと言う人と結婚も考えたのですが、順子さんはどこかに行つてしまいました。会社の女の子何人かと関係を持ちましたが、誰一人として結婚は考えませんでした。そんないい加減な私ですが、稲垣かをるさんに心を奪われていたのです。そんなことを思い出しながら考えていた私に「どうかされましたか」と彼女が声をかけて来ました。「いやなんでも無い。君がとても綺麗なので見惚れていたのだよ」と誤魔化して「私は、バツイチだけどいいかなあ気にならない」「私はそんなことは気にしていません、現在の籠谷さんが私を愛してくださいるのであればそれで十分です」私はそれを聞いてますます彼女が好きになっていました。

事実今の私は一文なしで、人生一からのスタートをしようとしているので、生活の面でも不安だと思ひますが、そこを乗り越えてくれた彼女に感謝です。

「では、そうゆうことでご両親にも貴女との結婚を許していただくように今日話をします、それで良いですね」「よろしくお願ひします」二人はニコツと笑ってその場をたち一路彼女の自宅に向かいました。

十二時近くになっていましたので、お昼にお伺いするのは失礼なのですが、彼女が電話したところすぐに来るように言われたのでそのままお伺いして、十二時丁度に着きました。お父さんとお母さんとお姉さんが迎えてくれました。彼女は三姉妹で一番下です。真ん中の姉さんが実家にいて近くの病院の看護婦をしているそうです。お父さんは農林省に勤務、お母さんは専業主婦です。お姉さんは結婚して子供が一人幼稚園に行っているそうです。その日は旦那さんは留守でした。お父さんは小柄な人で、いかにも真面目なお役人といったところでしょうか、お母さんは大きな人でした。私はいさつもそこそこ何かから話そうか考えていましたところ、お母さんが「ます、お腹が空

いたでしょ、お昼を頼んでからでまずはそれを食べてからお話ししましょうか」と言ってお井を5つ、出前の鰻井を出してくれました。しかし私は鰻が唯一苦手な食べ物で心の中で「わあ困った、これは食べないと失礼に当たるし困った」と迷っていると、彼女が「これはこの近くのお店でもとても美味しい鰻井ですよ」と私の苦手を知らないものから進めてきましたが、私は覚悟を決めなければならぬと思っていました。田舎で鰻井は唯一贅沢な物で、大それたお客さんには必ず鰻井だそうなんです、後で聞いたのですが、「いただきます」と元気がよく私は言って覚悟を決めて一口食べ始めました。それが今までの大阪の鰻井と全然違うのです。香ばしくて表面はかりつとして肉厚で美味しいのです。私は驚きと安堵の気持ちでその鰻井を頂きました。五人で鰻井を食べながら私はこの後何かから話をしようかと考えていました。まさか娘が結婚するなんて考えておられないでしょ

うし、どうしたものかショックが大きすぎるか、いきなりの話ではと悩んでいました。さてこの後どうなっていくのか、私たちは無事に結婚と仕事を手に入れることが出来るのか、この続きは次回まで……

籠谷 弘



歌声喫茶 8月・9月の予定

「西院」(第2、4木曜日)

8月は両日とも休みです。

9月12日、26日

楽々亭第 8月の予定

8月は休みます。



ともしび通信

発行元：NPO 法人没イチの会・京都

住所：京都市西京区大枝北沓掛町一丁目5番地2-406

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。